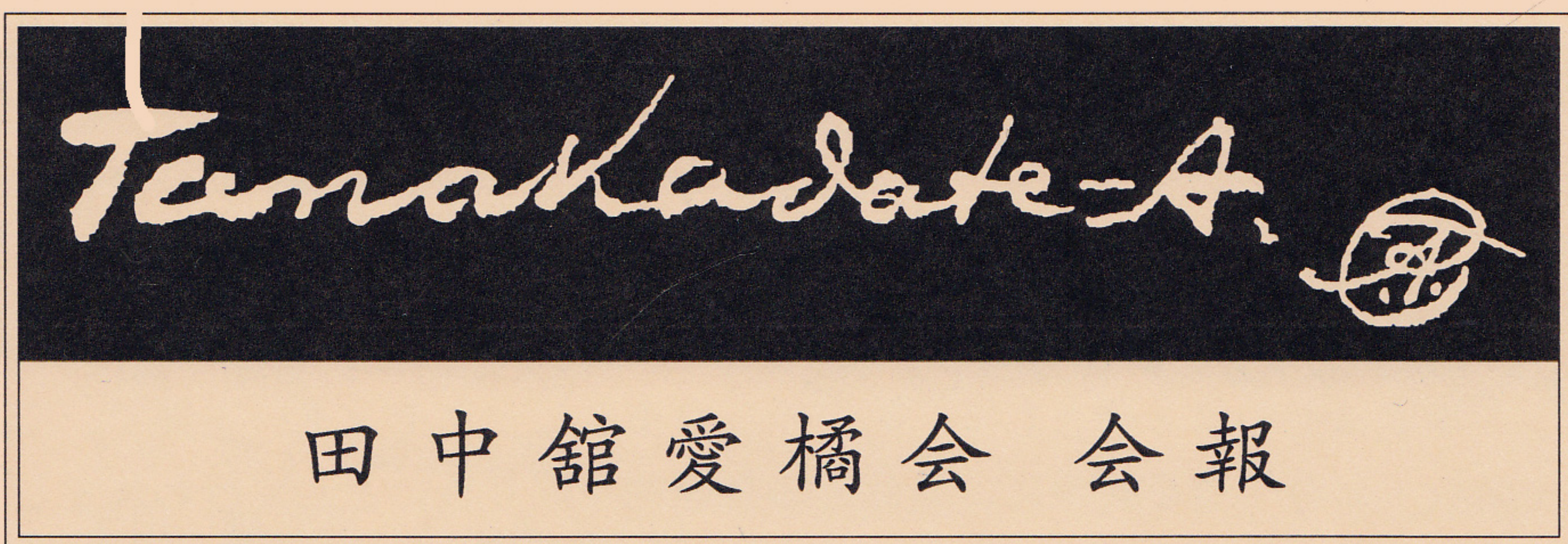




田中館愛橘会 会報

平成22年度（第25回）

5月22日（金）

総会関連行事

終わる

10:00～10:30 お墓参り（58年祭）

10:40～11:50 定期総会

12:00～13:30 懇談会

今回も例年のように晴天に恵まれ、第25回の総会関連行事が祖霊者において実施されました。例によって、到着次第に墓参りをし、博士の遺徳を改めて噛み締めて頂きました。その後、恒例の金田一「歌の集い」の皆さんによる「博士の和歌」のコーラスがオープニングとして歌われました。今年の歌は、

花咲かば また帰り来ん 故郷の
紅葉の山を 見つつ行くなり

※昭和21年11月10日、博士がいつもお世話になっている 小保内くら氏（稲荷神社宮司 小保内道彦氏の祖母）に東京へ出立の朝贈られた歌で、珍しく漢字かな混じり文で書いてある。

※昭和27年5月26日の日本学士院葬と6月8日の福岡町葬の際に、他の歌と友に献詠されている（作曲は 小松 清氏）

この博士の贈られた歌に対して、小保内くら氏からの「返し歌」がかなり年月が経ってから発見されたのが次ぎの和歌です。

花咲かば また帰りませ 故郷の
山川笑みて 翁（おきな）迎えん

※いつ作られたかは不明（作曲 サトー）

続いて定期総会・懇親会と進行し、菅原孝平議長のもとに議案も殆ど原案通り可決され、スムーズに終わることができました。本年もまた、ご遺族の松浦 明氏から熱のこもったスピーチを頂き、大変有意義だったと思っております。

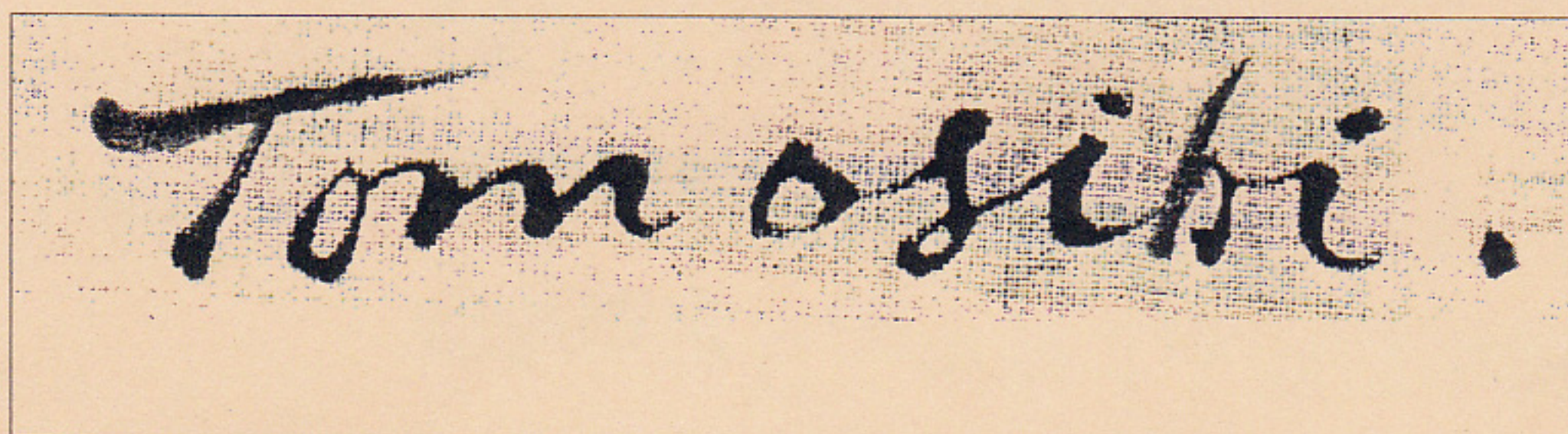
第2回 ローマ字書道コンクール

昨年度、シビックセンターGの「オープン10周年記念事業」として企画・実施され、全国的に大変珍しい「催し」としても注目されました。恐らく全国的にも唯一の「催し」だろうと確信しております。その結果については本会報45号で報じております。

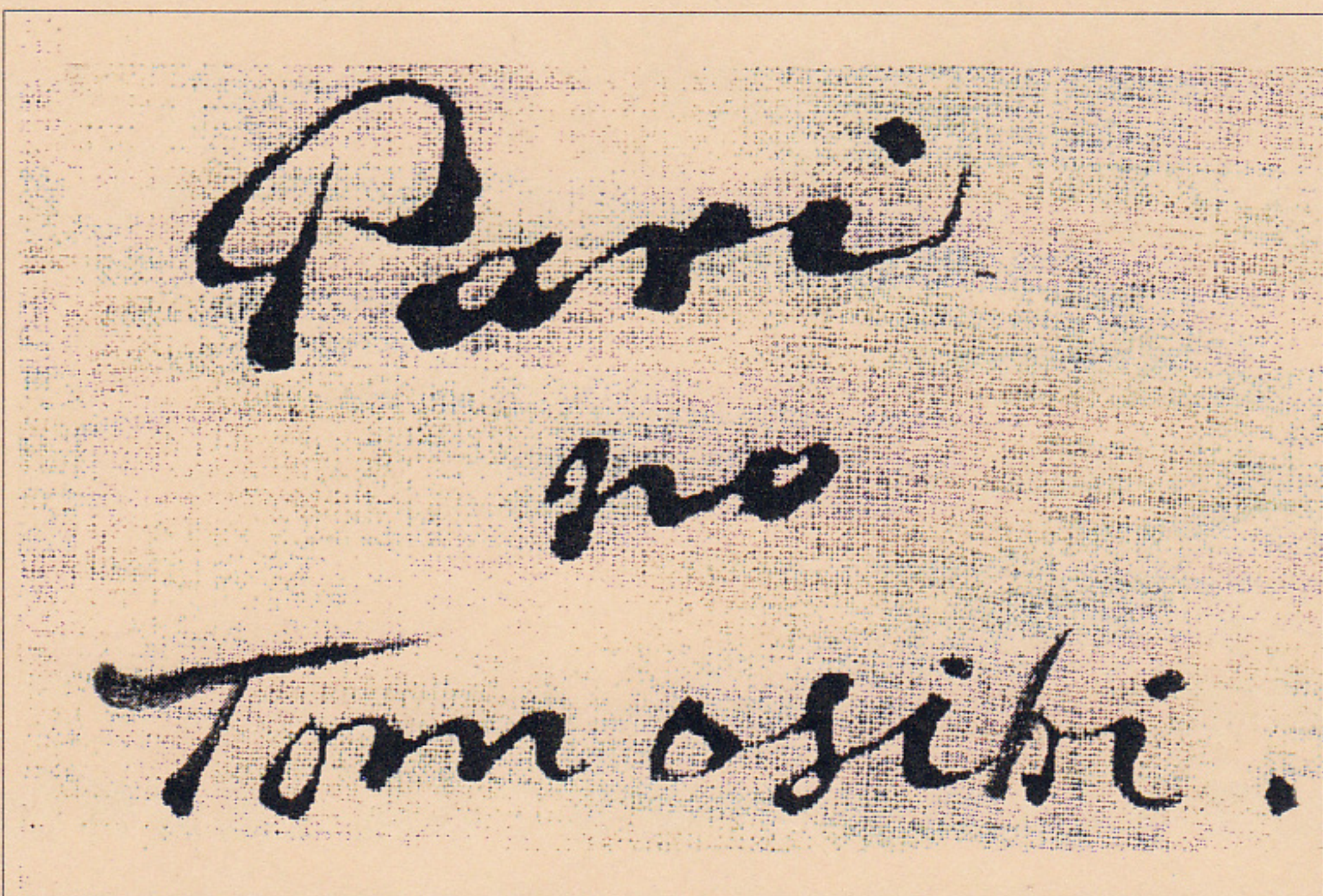
今年度はその第2弾として、同じく二戸市シビックセンター主催で、二戸市内の小学校・中学校・高等学校を対象に、夏休みの課題的な取り扱いとして行われました。

◎本年度の課題は次のようにセットされました。

○ 小学校の部



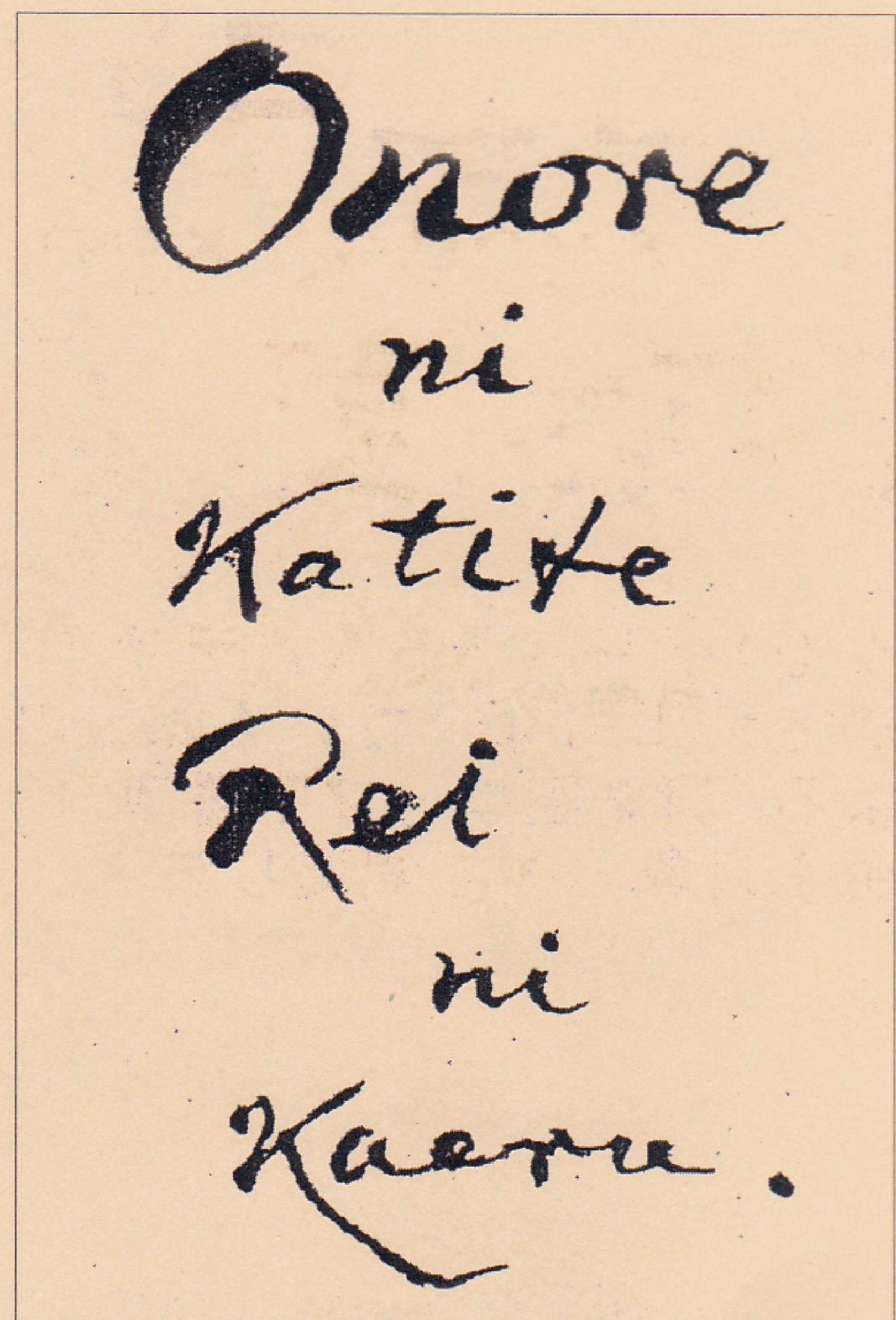
○ 中学校の部



※小中学校の部は、次の和歌から引用されています。

空高み 振り返れば ほのぼのと
霧に消えゆく パリのともしび

○ 高等学校の部



※高等学校の部は、次の和歌から引用されています。

己 に 克ちて
礼 に かえる

(額装)

◎本年度の応募者は残念なことに昨年度より激減して次ぎの様に、

○小学校 44点 ○中学校 28点 ○高等学校 0点

で、チョット以外だった。学校事情や子供たちの意欲など原因は種々あらうと思われるが、寂しかったことに変わりはない。それにしても、高等学校がゼロだったのは全く以外だった。

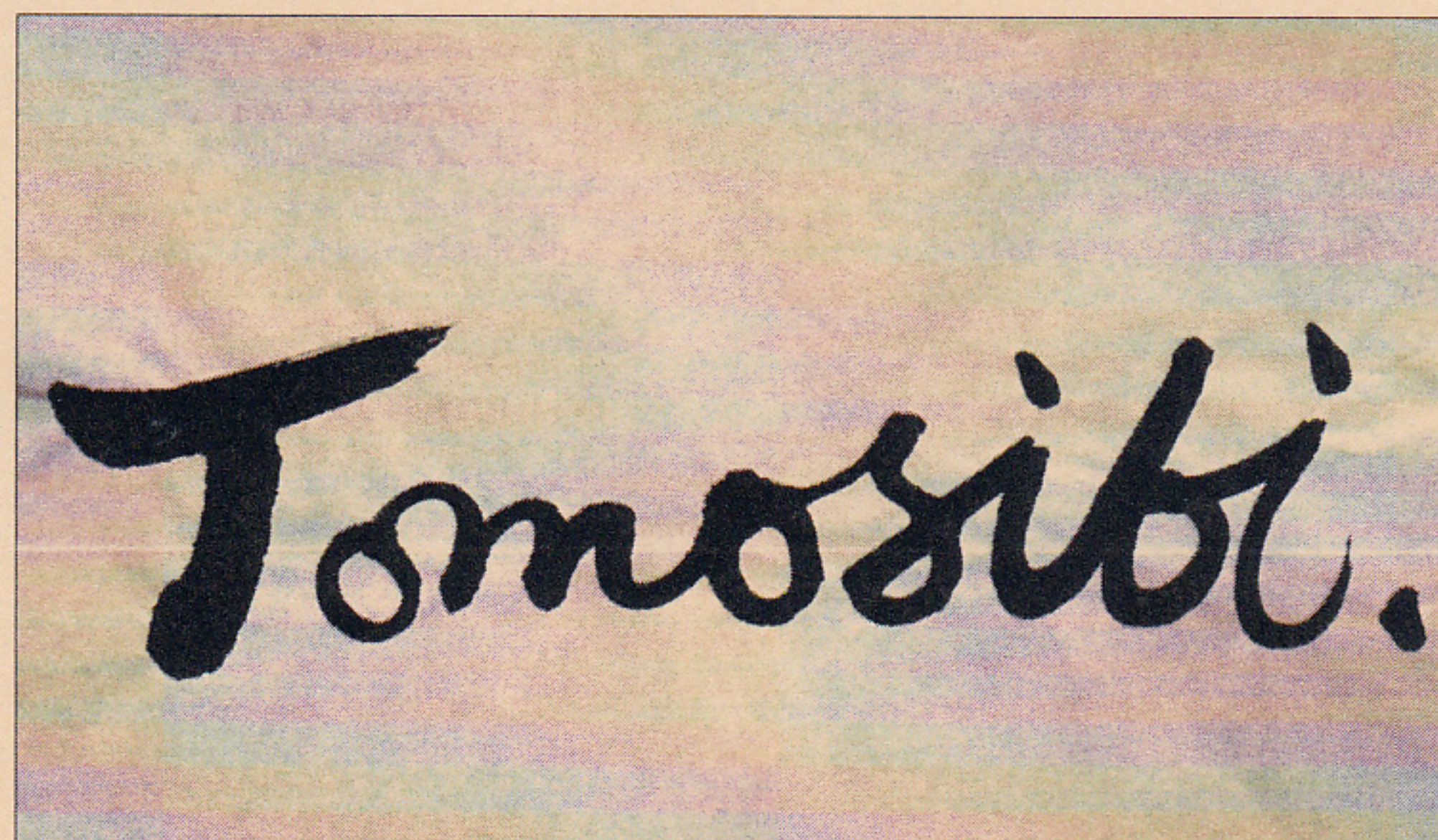
前回は書道部員が全員(15名)応募してくれたのに――。

聞くとところによると、指導者が替わったとのことで、そのせいかも――。

指導者が替わるとこのようなことは当然あり得ることと思われるから――。

審査には、二戸民俗資料館長 菅原 孝平、田中館愛橘会会長 丹野 幸男、田中館愛橘会事務局長 佐藤 綾夫の三氏が当たり、次のように入賞者が決まりました。

- 小学校の部 (金賞) 田口 理央 (御返地小6)
 (銀賞) 宮沢 英里 (御返地小6)
 (銅賞) 長坂 千鶴 (福岡小5)
 (入選) 米田 彩佳 (二戸西小6)
 漆原 優衣 (二戸西小6)
 山館 美紅 (二戸西小6)
 上平 聡子 (御返地返小6)
 米田 穂乃花 (御返地返小6)
 (審査員特別賞) 漆原 聖華 (二戸西小5)
 田中館 恵 (二戸西小6)
 路奥 寿幸 (二戸西小6)
 牛間木 桜 (二戸西小6)
 折戸 勇太 (御返地返小5)
 千葉 祐矢 (御返地返小5)



—小学校の部 金賞 田口 理央さんの作品—



—中学校の部 金賞 四戸岸悠磨さんの作品—

- 中学校の部 (金賞) 四戸岸悠磨 (御返地中2)
 (銀賞) 伊藤 里美 (仁左平中3)
 (銅賞) 桜井 優子 (御返地中3)
 (入選) 佐藤ゆきな (仁左平中3)
 奥 柚穂 (御返地中3)
 坂本 龍輔 (御返地中3)
 山本 優実 (御返地中3)
 切明畑 華 (御返地中3)
 (審査員特別賞) 塚根 沙羅 (仁左平中3)
 千葉 晃平 (御返地中3)

◎入賞作品は、シビックセンター市民ホールに暫く展示の予定

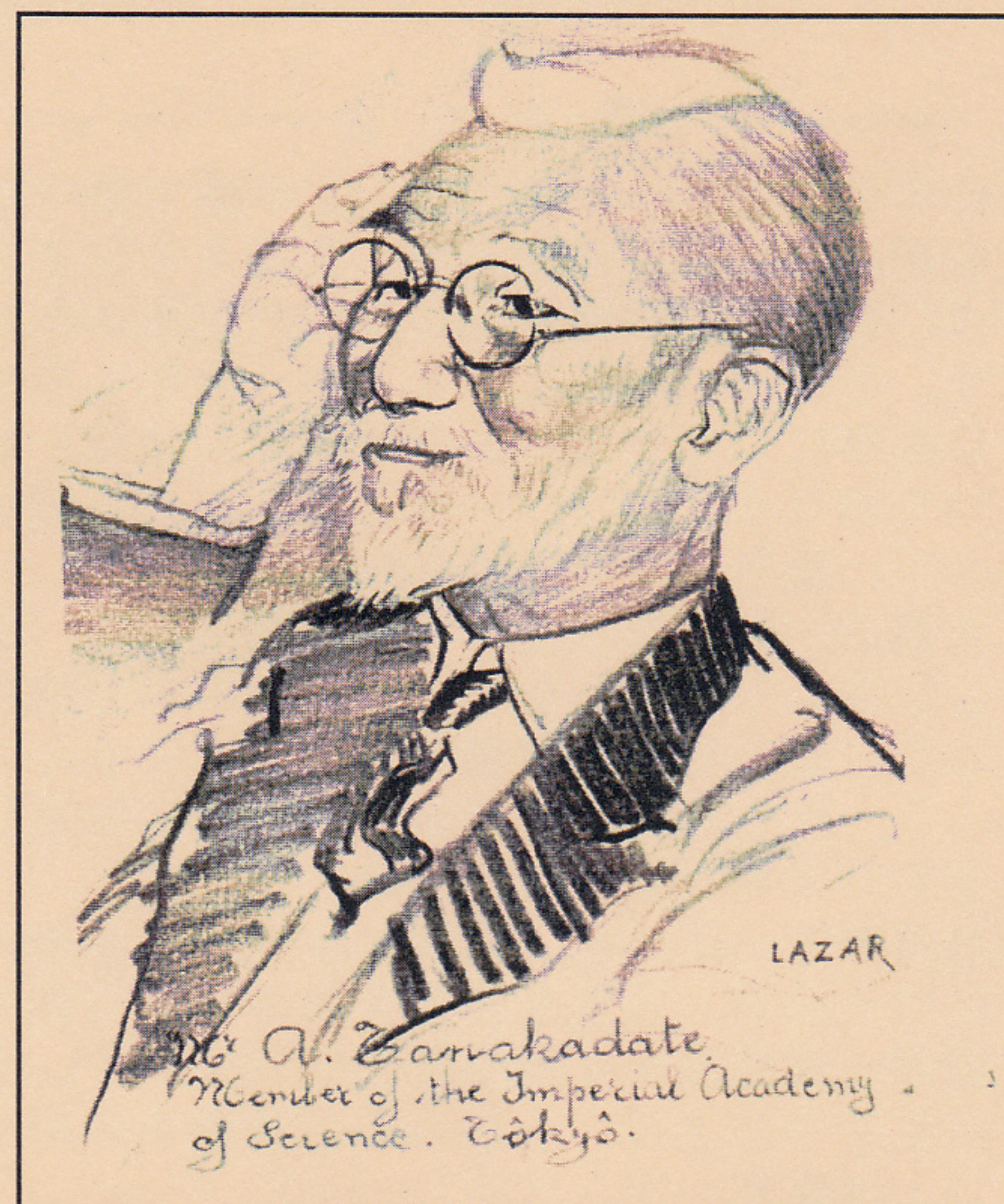
田中館愛橘博士

発見 —肖像スケッチ絵はがき—

このほど(2010年4月頃)故 田中館申一郎氏の姪ごさんに当たる、二戸市福岡の田中館和子さん宅から右のような肖像スケッチ絵はがきが発見された。

描いたのは、写真にも記名があるように、オスカル・ラザール (OSCAR RAZAR) で、ジュネーブにアトリエを構え、1920年代頃に、国際連盟関係者や世界の科学者の肖像スケッチを数多く描いた、売れっ子画家だった。

描かれた時期については、博士の71~77才頃に描かれたものと推測される。



博士は、アジアからただ1人の国際連盟知的協力委員として昭和2年から7回出席しているので、その間の博士70才代の肖像であろうことは間違いないと思われる。

この時期に他にどんな人が描かれ、印刷部数がどれ程あったか興味の沸く所だが —。いずれ、博士の還暦祝いに弟子たちが贈った中村彝画伯による肖像画（油絵）より、およそ10年位後のジュネーブ外遊の姿であろうと思われる。

（二戸市歴史民俗資料館長 菅原孝平氏の提供による）

その後の歩み

- 平成21年 11月14日 資料調査委員会（於・シビック）
12月 9日 ※日仏合作グライダー100周年記念式典に出席
（於・東京大学安田講堂 会長出席）
- 平成22年 2月 1日 資料調査委員会（於・シビック）
3日 ※第47回田中館博士記念児童生徒科学研究発表会後援
3月 1日 ※第1回科学館展示検討委員会
4月 7日 21年度監査会（於・シビック）
19日 ※第2回科学館展示検討委員会
28日 理事会（総会提出議案 他）
5月 4日 ※福岡史談会で博士の講演会（会長 稲荷神社社務所）
5月21日 第25回総会関連行事実施
○お墓参り（58年祭）
○定期総会
○懇親会
6月14日 ※第3回科学館展示検討委員会
（予定）8月20日 ※第4回科学館展示検討委員会（最終回）
9月12日 ※42回県立病院医学会総会で講演（会長 パークホテル）
13日 ※第5回科学館展示検討委員会（最終）※ローマ字書道審査

~~~~~あ と が き~~~~~

☆昨年9月発行の会報にも、この欄で集中豪雨を初めとして「異常気象」を憂える記事を書き連ねた記憶があります。それが、あるまいことか、今年も全く同じ記事にしてもよいような「異常気象」が続いておりますのは、一体どうしたものでしょうか。猛暑までも付加されて。人類が、地球を利用するだけ利用して「お返し」をしっかりとしないので、さすがの地球も本気に怒って人類に警告を発しているのでは。だとしたら、真剣に地球に「お返し」をする大英断をしなければ。

☆訃報です。下斗米 昭氏（4月）下斗米先生にはその昔、大変な苦勞をなさって「田中館愛橘 遺墨集」を編集発行して頂きました。お礼を申し上げ、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

《会報のタイトルについて》

- *写真は昭和19年4月、文化勲章受章の時のものです。
- *氏名、サインとも博士の自筆であり、サインは絵やローマ字の書き物をなされた時に主として記しており、両方とも印鑑にしているものも有ります。

《会報の発行について》

- *年2回発行
- *編集者 佐藤綾夫（事務局長）

《発行所》 田中館愛橘会

〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡55
二戸市シビックセンター内 ☎0195-25-5411
F0195-23-3548
（振替口座）02350-8-18841

《印刷所》 沢倉印刷株式会社

〒028-6101 岩手県二戸市福岡字城ノ外38 ☎0195-23-3107